いちがお園だより

発行 社会福祉法人はしうど福祉会
発行日 令和2年11月1日
No.309

♪静か～な～…里の秋

１０月といえば秋祭りに運動会。地区が盛り上がる一大イベントでしたが、コロナ禍の今年は、残念ながら例年通りとはなりませんでした。
いちがお園のある岩木地区も、屋台の巡行はなく、辛うじて道路沿いののぼりが、祭りの雰囲気を感じさせてくれる程度で、静かな１０月となりました。
それでもご利用者に秋を感じていただこうと、各事業所で秋にちなんだ行事を実施しています。
特養では本格的な焼き芋大会、デイサービスでは運動会や、祭りの雰囲気を感じていただく行事を行いました。
コロナの終息は見通せず、インフルエンザの流行も心配される季節になりますが、少しでも元気に冬を乗り越えられるよう、楽しい企画を実施して行きたいと思います。

炭火焼き芋

実りの秋

食欲の秋

祭りには太鼓！

心躍ります

負けるなえ～！

スポーツの秋

本格的な飾りで運動会ムードも満点！
決戦に備えて準備体操

家族会清掃デー

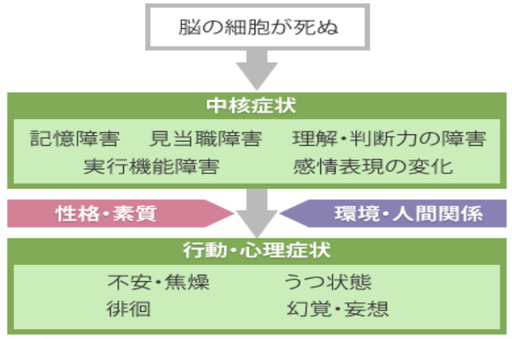
お世話になりました

10月18日、いちがお園家族会の皆様が、施設周辺の草刈りを中心に、整備作業を行ってくださいました。
普段なかなか手の回らない、法面や駐車場周辺まできれいにしていただき、毎日気持ちよく過ごすことができます。
家族会の皆様には、お忙しい中お世話になり、ありがとうございました。

健康講座

「痛み解消でお仕事効率UP！」をテーマに、健保の健康講座を職員が受講しました。実際に体を動かして自分の動きを知ったり、仕事に影響する体の痛みの予防法など、日常生活でも役立つ内容でした。

在宅介護支援センター



こんにちは ケアマネジャーです

今月も先週に続き、『認知症』について紹介します

先月は記憶障害や見当識障害、理解判断力の障害や実行機能障害などの中核症状についてご説明しました

今月は、本人がもともと持っている性格や環境、人間関係など様々な要因がからみあって起こる、うつ状態や妄想といった心理面・行動面の症状です

このため、認知症のタイプが同じであったとしても全く違う症状が見られるなど、個人差がかなり大きくなります

こんな症状が・・・

自分のしまい忘れから、他人への物とられ妄想になったり

今までできたことが上手くできなくなって自信を失い、すべてが面倒になったり

能力の低下を自覚して、元気がなくなり引っ込み思案になったり

嫁が家の財産を狙っているといったオーバーな訴え・行動がちぐはぐになって徘徊するようになったり

発症したら治らない？
予防方法は？

日頃の生活管理と早期診断・治療が大切です
認知症の大部分を占めるアルツハイマー型認知症は、生活習慣（高血圧症、糖尿病、高脂血症など）との関係があるとされています

例えば、野菜　果物　魚介類の豊富な食事や定期的な運動習慣を身につけるなど、普段からの生活管理も予防につながります

症状が軽いうちに認知症であることに気づき、適切な治療がうければ、薬で進行を遅らせたり、場合によっては症状を改善したりできます
気になる症状があれば、主治医に相談してみてください

家族会様
いちがお園周辺の草刈りをお世話になり、スカッとしています。ありがとうございます。

松田様
毎年、菊の花をありがとうございます。満開です

シルバー人材センター様
剪定の甲斐あって、スッキリ。キウイもたわわです

11月

2日　書道
3日　生花
6・20日　手芸

12日　介護研究発表大会
14日　宇川いちがお園運営推進会議
26日　理事会

久しぶりの外でのお弁当！

グループホームいわきの里

最高に美味しかったわ！

やっぱり外で
食べる食事は
最高だわー！

『外で食事をしよう！』と題して企画を行い、いわきの里の畑の前で食事会をしました。職員の手作り弁当を頬張り、「外で食べるご飯はまた格別だわぁ～、また食べたいわぁ」と笑顔で話をしてくれたり、ヘリコプターに嬉しそうに手を振ったりするご利用者もおられ、普段あまり見られない姿も見せて下さいました。また、施設長にも一緒に参加して頂き、皆さん楽しく賑やかな時間を過ごしました。

外はいい気持ち

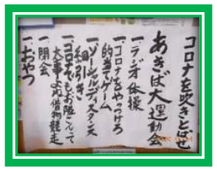
あれは鳥か？
飛行機か？
ヘリコプターだ！

あきばの里

今年の祭りは各地区ごとの屋台まわりでした。屋台や太鼓の音に、ご利用者・職員とも胸弾ませました。
小泊地区の皆様、ありがとうございました。

あきばの里大運動会

おそらく小多機全国初？
ソーシャルディスタンス綱引き



優勝！

運動会の
お弁当風
お昼ごはん

職員もマスクの
上からキッチン
ペーパー手作り
マスクに絵を
描いてオモシロ
表情で盛り
上げました

むかごご飯って知ってます？

『むかご』を頂きました。
むかごは、山芋などの芽だそうです。
炊き込みご飯にして、皆さんから
「懐かしい」と喜ばれました。

宇川診療所

松田哲朗先生のご紹介

松田先生は峰山町のご出身。高校より丹後を離れ、1986年に自治医科大学をご卒業後、同年京都府立医科大学に入局。長年消化器外科医としてキャリアを積んでこられました。
2013年、へき地の医療過疎改善に少しでも貢献できたらと一念発起し、青森県津軽半島最北端に位置する今別診療所に5年間総合診療医として赴任。2018年4月より、丹後へUターンし、宇川診療所へ着任されました。
先生のモットーは、患者様を第一に考えた診療を心がけることはもちろんですが、過疎地域、田舎だからこそ、都心部と同じ医療を提供し、地域住民の皆さんがわざわざ遠方の病院まで足を運ばなくて済むような最先端医療を提供することが、かかりつけ医の使命だとおっしゃっていました
先生が着任されてからは、透視機能付きデジタルレントゲンシステム　高画質上部消化管内視鏡システム（胃カメラ）などの最新の医療機器を導入され、先生の経験豊富な内視鏡の技術をいかんなく発揮されています。検査時間も約5分程度ととても短いです。

高血圧　糖尿病などの生活習慣をはじめとした一般内科的疾患はもちろん、外科的疾患　整形外科的疾患なども対応されます。宇川診療所職員と手を携え、地域住民の方々へ満足度の高い医療を提供できるよう、また地域の皆様に信頼を得られるよう頑張っていきたいと思います、とのことでした。

送迎も致します
ご連絡ください
76－0210

医務より

ノロウィルス

冬の感染性胃腸炎の原因のトップを占めるノロウィルス

【感染の仕方】
①食べ物からの感染・・・ノロウイルスに汚染された牡蠣等の二枚貝を十分加熱しないで食べることで感染
②人から人への感染・・・感染者の便や嘔吐物からの感染

【嘔吐物などの処理方法】
ノロウイルスは感染力が非常に強いので、特に注意が必要です。
感染者の嘔吐物や便を処理する際には、直に触れないよう使い捨てのビニール手袋等を使用しましょう。
汚れ物はポリ袋に入れ、しっかりと密封して破棄して下さい。
汚れが付着したところは、使い捨てできる布や紙で拭き取った後、次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤）で消毒します。
処理する時にウィルスが手に付いたり、処理しきれずに残ったウィルスが空気中に舞い散り、それが口に入り込んで感染することもあります。
【感染予防】
ワクチンはありません。手洗いを習慣にすることが最大の予防策です。
手に付いたウィルスの多くは、石鹸と流水で20～30秒かけて丁寧に洗う事で落とせます。

【高齢者が感染すると】
・ひどい下痢と嘔吐のために脱水症を起こす危険性が高くなります。

※命に関わる事もあるので十分な注意が必要です。